

# ねっとわーく

11月号

No. 157

## 特色ある公民館活動



イスラム文化交流〈北九州市〉



笑顔で語ろう人権問題〈那珂川市〉



スマホ教室〈大木町〉



プランターで野菜づくり〈川崎町〉

### 市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕

- ・未来をみつめて繋いで（連携）、継なぐ（継続） 北九州市立二島市民センター ……P1
  - ・区公民館人権問題研修会の実施 那珂川市中央公民館 ……P2
  - ・スマホ教室 大木町公民館 ……P3
  - ・プランターで野菜づくり 川崎町中央公民館 ……P4
- こちら県公連
- ・第68回福岡県公民館大会事業報告 ……P5



# 未来をみつめて繋いで（連携）、継なく（継続）

北九州市立二島市民センター

## 【地域の概要及び経緯】

二島校区は、若松区の中央に位置し、南は北九州工業地帯の中心である洞海湾を臨み、北は三種類のほたる（ゲンジ・ハイケ・ヒメ）が同じ場所で観察できる（原田川・ほたるの里）、全国でも貴重な自然環境を有する地域である。地域の実態としては、高齢化率38%と北九州市、若松区の平均を上回っている。また、本年度の校区小学校の児童数は最盛期の85%減という正に「少子高齢」地域である。この傾向は、今後も益々進むであろう。それに伴い、令和の時代に入って、○自治会の解散○生涯学習の縮小（センタークラブ数・クラブ員の減少）○地域と学校・子ども・保護者を繋いでいた小中学校PTA、中学校区地域会議の解散等、今まで当たり前にあったものが、消滅するという現実を目の前に突き付けられた。

一方、コロナ禍の中、各校区では様々な行事や事業が中止に追い込まれたが、二島校区は、皆で知恵を出し合い協力し合って、可能な限り工夫して行事を実施してきた。逆境に負けない事が、二島校区のよさであり強みである。そこで、市民センターとしても目の前にある様々な課題に対して、何ができるのか皆で考え知恵を出し合い、地域の将来を見据えて新たな地域活力の発掘・創造に取り組んだ。未来への「繋がり」を求めてセンターが発信、中継基地になる事を目指した。

## 【具体的な取組】（令和4・5年度）

### 1. 多世代を繋ぐ

#### ①保・幼・小・中・高校との連携

- 中学生ボランティアの創設…小学生対象の講座の補助、育児サークルの補助（乳幼児、保護者と中学生が交流）、地域活動への参加、校区文化祭バザーの手伝いなど
- 高校のボランティア部を講師に迎え、小・中学生が参加する講座の実施

#### ②校区文化祭に中・高生ダンスチーム、小学校のダンスクラブが参加

#### ③小学生（校）との連携

- 子供向け講座と自治会（サロン活動）との交流活動
- 男性向け市民講座との連携
- 学校の校区探検（2年生の授業）の際、児童が高齢者地域交流事業のプログラムに参加

#### ④保育園との連携

- センターを運動会会場、避難訓練の避難先として活用。その際に地域住民（生涯学習等）とのプチ交流が自然発生。



【講座による小・中・高の連携】

### 2. 異文化と人を繋ぐ（校区内に創設された（R4年）「イスラム文化交流センター」との交流を通して、多文化共生を目指す）

#### ①地域住民と共に、毎月定例の校区内防犯パトロールに同行

#### ②グローバル講座の実施：留学生たちを講師に迎え、子供向け講座の開催（文化紹介、民族楽器の演奏等）

#### ③夏の大きなイベントである「ほたる観賞会・光のオブジェづくり」に参加

#### ④イスラム伝統行事「イフタル（食事会）」に地域住民が参加し、食事を通して相互交流

#### ⑤校区文化祭に参加

- イスラム文化体験コーナー（文化の紹介・ステージ演奏・ダンス）を通じた交流
- 同日開催するイスラム文化交流センター主催バザールとのコラボ等々、年間を通して様々な文化と人との交流を仕組んだ。



【イスラム文化交流】

**【成果】** 新たな繋がりを目指した事業を通して、地域の行事や祭りに、若い世代や新規、外国籍の人の参加が確実に増えた。また、当センターにも今まで来館されてない地域住民や子ども、その保護者など若い世代が足を運んでくれるようになった。新しい繋がりが、更なる繋がりに波及し、地域活性化の一助になったことを感じる。

**【課題】** この取組を一過性のものにしらない。継続して更なる進化、発展、拡充を目指し（市民センターの人材が入れ替わっても）繋がりを継ないでいくことが課題である。

【問合せ先】 北九州市立 二島市民センター  
〒808-0102 北九州市若松区東二島2-7-3  
TEL 093-791-1552 FAX 093-791-1553

区公民館人権問題研修会の実施  
～多様な市民の人権を尊重した社会をめざす公民館活動の実践～

那珂川市中央公民館

【地域の概要及び経緯】

那珂川市は、福岡県の中西部にあって福岡市の都心部から南に13キロメートルのところに位置しています。市域の大半を占める南部の脊振連山は、脊振雷山県立自然公園に指定され、ここに源を発する那珂川とともに、豊かな自然が形成されています。恵まれた自然環境や福岡市の都心部から至近の距離にあること等から人口が増加し、平成30年10月に那珂川町から那珂川市となりました。

那珂川市では、「多様な市民の人権を尊重した社会」をめざし、地域における人権・同和教育と啓発の推進活動に取り組んでいます。

【活動内容】

「公民館活動は人権尊重が基本である」という認識のもと、市と区公民館連絡協議会が連携し、昭和60年度から市内各区に人権問題研修部長を設置しています。各区で主体的に人権問題研修会を企画・実施できるようにするため、区公民館連絡協議会の主催で、人権問題研修部長や、区公民館役員を対象とした人権問題研修会をそれぞれ開催し、研修推進役としての人材育成に努めています。

研修会は、人権問題研修部長を中心として、区公民館役員が研修のテーマや進め方、講師などを検討し、1年に1回それぞれの区で開催します。区ごとの人権問題研修会は、平成元年度に6館で実施されて以降、取組が拡大し、近年は市内37行政区の全てで実施されるようになりました。

【成果と課題】

コロナ禍となる前は、市内にある37行政区の全てで研修会が開催されていましたが、令和2年度はわずか2行政区でしか開催ができませんでした。その後、感染症拡大防止対策を講じながら、令和3年度には12行政区、令和4年度には26行政区で研修会を開催することができました。

研修を受けた方からは「人権問題について改めて考えるきっかけとなった」、「他者との違いを認め、今までの自分を省みる良い機会となった」という感想を多くいただいています。今後も、引き続き、市と区公民館連絡協議会の連携により、全ての行政区で「多様な市民の人権を尊重した社会」をめざすための体制をつくっていくこととしています。



【研修テーマ：公民館活動と人権問題】



【研修テーマ：笑顔で語ろう人権問題】

【問合せ先】 那珂川市中央公民館

〒811-1241 那珂川市後野1丁目5番1号

TEL 092-952-2092 FAX 092-952-2093

【地域の概要及び経緯】

福岡県の南西部に位置し、九州の穀倉地帯筑後平野のほぼ中央にあります。温暖多雨の穏やかな気候にくわえて、町全体が標高 4～5 メートルのほぼ平坦な理想的な田園地帯です。また、町の総面積の約 14%を占める堀（クリーク）が、町全域を縦横無尽に張り巡らしており、その歴史は荘園時代にまで遡るほど、日本屈指のクリーク地帯です。

【活動内容】

デジタル社会の推進の中で、年齢を問わずに誰でも簡単にスマホを操作できるような取り組みとして、令和3年度からスマホ教室を実施しています。4年度にはスマホ支援員（6名）を育成し、専門の講師と一緒にスマホ支援員がサポートしながら、スマホ教室を開催しています。

会場は、参加者ができるだけ身近な場所で受講できるように、校区コミュニティセンターで実施しています。

電源の入れ方や切り方など基本的な内容をはじめ、5年度は、SNS の使い方や電話カメラなどの講座を実施しています。

デジタル支援員には、シルバー人材センターや社会福祉協議会の職員も受講されているため、日常的な相談できる場所として、窓口でも簡単な操作のアドバイスをされています。



スマホ教室のようす

【成果と課題】

コロナ禍によって、地域のコミュニティを深める機会が少なかったことで、「気軽に聞ける相手がいなかったが、この機会に聞くことができよかった」とか、「基本的なことを学ぶことができ、使えることが広がって楽しくなった」などの感想が聞かれました。

また、デジタル支援員の方が、自分の所属している団体の方を対象にした教室をさせて、自主的な講座に広げられていることが、教室を行った成果の一つになると感じています。

ただし、スマホ教室への参加者数の伸びが少ないので、身近な方や近所の方同士で参加できたり、個々のレベルに応じた内容の企画をしたり、また、デジタル支援員をさらに増やし、相談できる場所や拠点の広がりなど、「地域のつながり」ができる手段として継続、充実させていけたらと考えています。

【問合せ先】 大木町公民館（大木町図書・情報センター内）  
 〒830-0416 福岡県三潴郡大木町大字八町牟田255-1  
 TEL 0944-32-1047 FAX 0944-32-1183

# プランターで野菜づくり

川崎町中央公民館

## 【地域の概要及び経緯】

川崎町は、福岡県田川郡の南西部に位置し、南北 12.6 km、東西 4.9 km、総面積 36.14 km<sup>2</sup>の町です。昭和 12 年に南部の安真木村と北部の川崎村が合併し、昭和 13 年から川崎町となり、今年で町制施行 85 周年目となります。昭和 30 年代は石炭産業で栄え、その後、農業、自然を生かした観光や、すべての人にやさしい、福祉のまちづくりを進めています。

## 【活動内容】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出が自粛されるなか、野菜を作ろうとする家庭が増えてきました。また、健康づくりの一環として土いじりに興味を持つ方が増えているのが現状です。しかし基本的な知識がないため、上手に野菜を作ることができない人が多くいます。このような人達をフォローし、生きがい、健康づくりの一助となる為、令和 2 年度から毎年続けてこの講座を開講しています。



【写真 1：苗を植えている様子】

## （講座内容）

○プランターでの野菜栽培

（トマト・きゅうり・ナス・ほうれん草・チンゲンサイ等）

○年 5 回開講・川崎町コミュニティセンター多目的ホール

- ・第 1 回講座 4/17（日）10 時 ～ 11 時 30 分  
ミニトマト・きゅうり・ナスの苗植え実習
- ・第 2 回講座 6/12（日）10 時 ～ 11 時 30 分  
管理方法の講義及び現地（畑）実習
- ・第 3 回講座 9/11（日）10 時 ～ 11 時 30 分  
ほうれん草・チンゲンサイ等の種まき実習
- ・第 4 回講座 11/19（土）10 時 ～ 11 時 30 分  
管理方法の講義
- ・第 5 回講座 1/22（日）10 時 ～ 11 時 30 分  
1 年間の実習を終えて、まとめの講義



【写真 2：水まきをしている様子】

## 【成果と課題】

野菜づくりに興味を持っている人が多く、毎年定員オーバーする程の人気講座となっており、今年は 17 名が参加をしています。特に第 2 回講座の現地（畑）実習は人気があります。この野菜づくり講座だけでなく、これからも、生きがい、健康づくりや町民の交流の場となるような講座を実施していきたいと思えます。

【問合せ先】 川崎町中央公民館（川崎町コミュニティセンター内）  
〒827-8501 福岡県田川郡川崎町大字田原 786-2  
TEL 0947-72-3000 FAX 0947-73-2468  
syakyo@town.fukuoka-kawasaki.lg.jp

## 第68回福岡県公民館大会報告

### 【県大会テーマ】

『ウェルビーイングの実現を支える地域コミュニティの拠点としての公民館活動の在り方』  
～これからの人づくり・つながりづくり・地域づくり～

### 1 概要

第68回福岡県公民館大会を、令和5年8月3日（木）、岡垣サンリーアイにおいて開催し、県内各地から公民館に関わる553名の方々に御参加いただきました。

そこで、本大会では、事例発表、トークセッション、講演をとおして、参加された皆様と共に本大会のテーマである「ウェルビーイングの実現を支える地域コミュニティの拠点としての公民館活動の在り方～これからの人づくり・つながりづくり・地域づくり～」について考え、今後の取組に生かしていただくことを目的に実施しました。

### 2 開会・記念式典

本大会でも、地元の高校生に司会進行をお願いしました。今回は、県立遠賀高等学校の二人です。参加者に元気を与えてくれるようなアナウンスで大会をスムーズに進行していただきました。

大会式典の表彰式では、地域の公民館活動の振興に顕著な御功績があった28名の方々に、福岡県公民館連合会から表彰を行いました。表彰を受けた皆様には、これまでの御尽力に対しまして、心から敬意を表します。



【表彰式の様子】

### 3 事例発表・トークセッション

#### 【事例発表】

テーマ「ウェルビーイングの実現を支える公民館活動の取組」

NPO 法人地域サポートわかさ 那覇市若狭公民館 館長 宮城 潤 氏

#### 【トークセッション】

NPO 法人地域サポートわかさ 那覇市若狭公民館 館長 宮城 潤 氏  
コーディネーター studio-L 代表 山崎 亮 氏

大会式典後、那覇市若狭公民館館長の宮城潤氏から事例発表をいただきました。台風6号の影響により、急遽オンラインでの発表となりました。地域社会の課題が複雑化・深刻化する中で、地域住民が自治的（主体的・継続的）に取り組むことの重要性和これからの公民館活動のあるべき姿を示していただいた内容でした。特に、これから公民館等が生涯学習の拠点施設として、ソフト（学習プログラム）ではなく、OS（主体的な活動が起こりやすい環境）をつくることの重要性を御示唆いただきました。さらに、事例発表後のトークセッションでは、山崎亮氏にコーディネートしていただき、若狭公民館の取組みを更に深めていただきました。



【事例発表：台風の影響により急遽オンラインに！】



【トークセッションの様子（宮城氏・山崎氏）】

《トークセッションの宮城氏、山崎氏の言葉から》

(宮城氏)「一般的にはよく分からないと言われていたものが、実は未来を創っていくことになることが多い。変化が激しい予測困難な時代だからこそ、いろいろな取組で新しい価値を見出して可能性を開いていくことはとても重要だと思う。」

(山崎氏)「意味があるかどうかは分からないけどやってみるとそこから何か生まれるかもしれない。生まれないかもしれない。でも、そこで一緒にワクワクしたり楽しんだり、やってみようという仲間が集まったりすることが大事。それを公的にやることを認められている公民館は最強である。」

#### 4 講演

テーマ「ウェルビーイングの実現をめざした人づくり・つながりづくり・地域づくり」

studio-L 代表 山崎 亮 氏

トークセッション後、studio-L 代表、関西学院大学建築学部教授でコミュニティデザイナーの山崎亮氏から「ウェルビーイングの実現をめざした人づくり・つながりづくり・地域づくり」と題して、講演していただきました。講演では、2つの事例が紹介されました。

- ①「立川こども未来センター」(東京都)
- ②「根室別院」(北海道)

どちらの事例もワークショップを開き地域住民がつながりをつくるための企画(事業)を考え実践し、そこから新たな企画(事業)を広げ、多くの人に関わり、地域が活性化していることが伺える内容でした。どのような場所でもコミュニティ活動はできる。大切なのは、自分の公民館が地域の求めていることに応えられる公民館であるかどうか。そして、地域の人たちが嬉々としてその活動を続けていける状態をつくることの重要性を御示唆いただきました。

最後に、「公民館には、可能性がたくさん詰まっている。できることが無限である。福岡県の公民館が数年後に「すごいことになってきた」という声が聞こえてくるのを楽しみにしています。」と締めくくりました。山崎氏の講演に参加者から「新しい視点、発想、時代の変化を感じる内容でした。」など多くの肯定的な御意見をいただきました。

#### 5 来年度に向けて

本大会を開催するに当たっては、特に、開催地区である北九州地区の皆様の御尽力により盛会のうちに終えることができました。心より感謝いたします。

来年度は、北筑後地区の久留米シティプラザにおいて、令和6年8月7日(水)の開催を予定しております。参加された皆様からいただいたアンケートの結果等も参考にさせていただきます、さらに実り多き大会となるよう改善に努めてまいりますので、今後とも公民館活動の充実・振興のために御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



【講演の様子(山崎氏)】

福岡県公民館連合会

〒812-8575 福岡市博多区東公園7-7

福岡県教育庁教育振興部社会教育課内

TEL 092-643-3887 FAX 092-643-3889